



## おさふねクリニック

岡山県 瀬戸内市

### 患者さんの全身を継続的に診る プライマリアケアの実現を目指して 地域医療のレベルアップに貢献する

岡山市の東隣に位置する瀬戸内市。山々と瀬戸内海の豊かな自然に囲まれ、備前長船で知られる名刀の産地としても有名なエリアに「おさふねクリニック」があります。この地域におけるプライマリアケアの実現を目指し、2007年に中村明彦院長(51)がクリニックを開業して12年。地域の頼れるかかりつけ医として、厚い信頼を集める診療活動に迫りました。

#### きめ細かな診察と検査体制の2本柱で プライマリアケアを実現する

この春、開業12周年を迎えるおさふねクリニックは、透析センターを併設し、内科・リウマチ科・透析内科・糖尿病内科・腎臓内科・消化器内科の六つの診療科を掲げています。中村明彦院長は総合病院での診療や岡山大学大学院での研究に従事し、六つの専門医資格と博士号を取得しました。その後、開業するに至った理由をこう話します。「私が理想とするプライマリアケアを実現するには、かかりつけ医として地域に入っていくのが一番だ」という思いがずっとありました。例えば、糖尿病の患者さんでも血糖値を見て薬物療法や栄養指導をするだけでは不十分で、腎臓や心臓の疾患、動脈硬化のリスクなどを常に視野に入れて全身管理をしていく必要があります。病院では診療科ごとに分



外来と透析センターと、入り口は2カ所。JR長船駅から徒歩近く、駐車場も広く確保し、公共交通機関と自動車いづれからもアクセスしやすい。

かれ、専門に特化しがちですが、開業医ならば、疾患そのものだけでなく、患者さんの身近に寄り添って、全身状況を継続的に診る医療が実現できると考えたのです」

開業当初から力を入れてきたのは、検査体制の充実です。幅広い項目の血液検査と生化学検査が可能で、MRI、CT、エコー、心電図、血圧脈波、肺機能など中型病院規模の検査機器を各種そろえます。

「一番大事なことは診察です。診察で8割がた見立てがつかますが、さらに精密な検査でその裏付けをとる。目の前の患者さんの訴えや症状に、一つひとつ明確な答えを導き出すことを重視しています。それによって次の正しい一歩を踏み出すことができ、診断の知見も積み重なっていくのです。また、現疾患にかぎらず、がん・感染症・心疾患など命に関わる病気、さらに高齢の患者さんではADLを下げようような病気も含め、きっちり予防・早期発見していくために、検査の充実は不可欠です」

1日の患者数は約130人。うち4分の1は生活習慣病で、心血管疾患や慢性腎臓病などの慢性疾患を抱える患者さんも多く訪れます。地域で患者さんを診続けることができるように、透析センターを院内に開設し、定期的に整形外科、脳外科、内視鏡、フットケアの医師が訪れる診療体制を整えています。

「他疾患を併発した際は、他科の受診を勧めること

もありますが、それが院内で完結できれば患者さんも安心ですし、私たちも原疾患と併せて検査や治療計画を立てやすい。また、患者さんの高齢化も進んでいますから、できるだけ通院の負担をかけないためでもあります」

#### 常に勉強し続けることで 地域医療をレベルアップさせていく

おさふねクリニックの診療活動を支えるのは、看護師12名、臨床検査技師4名、診療放射線技師2名、臨床工学技士4名、理学療法士2名、医療ソーシャルワーカー1名、管理栄養士2名、看護助手2名、医療事務4名からなる総勢33名のスタッフです。さらに2年前には小寺亮副院長が就任しました。スタッフは専門に特化し、学会や研究会などでの論文発表も活発です。「よく話すのは『下りのエスカレーターを駆け上がっていくような努力が必要』ということ。医療は常に進化しています。今の知識や技術だけではレベルは相対的に落ちていくだけ。常に勉強し続けることが必要なのです」

患者さんと接する中で、疑問に感じたことや気づいたことを突き詰めて考え、分析し、答えを探す。そうすることで、さらなる良い治療が実現できると中村院長は話します。

「当クリニックの診察システムとして、必ず診療前に看護師が患者さんに問診をするようにしています。体調から症状、日常生活に至るまで丹念に聞き出して



検体検査室(上)、生理機能検査室、内視鏡室、X線・CT検査室、MRI室と検査設備は万全。最新の機器を導入するなど精度向上と迅速化に尽力。

もらったうえで、私が診察にあたります。新たな知見を勉強することで、何を引き出すべきか、どこに注意すべきかが明確になり、より患者さんに寄り添った治療ができると考えています」

高齢化が進んでいく時代、地域医療の果たす役割はますます重要になります。最近では、地域の先生方と糖尿病とリウマチ、さらに腎臓病の会を立ち上げ、地域医療の向上にも取り組んでいます。「ここで診てもらえて良かった」と患者さんに言ってもらえることが一番の喜びだと語る院長。地域医こそが、患者さんや地域の皆さんの健康の守り役となる——その思いを胸に今日も診療活動にいそんでいます。

#### おさふねクリニック

診療科目：内科／リウマチ科／透析内科／糖尿病内科／  
腎臓内科／消化器内科  
院長：中村 明彦  
所在地：岡山県瀬戸内市長船町土師332-1  
URL：http://www.osafune-clinic.com/

#### 片道1時間の通勤は前向きな未来志向が生まれる時間 「誰かの役に立つ」と考えることがストレスをなくすコツ

朝7時に自宅を出て、帰宅は21時頃に及ぶことも多いという中村院長の楽しみは、片道1時間ほどの通勤ドライブ。患者さんの治療計画、クリニックの運営方針、次の論文の構想など少し先に思いをはせながら車を走らせます。日曜日も午前中は出勤して書類作業にいそむことも。午後は自宅に戻り、犬の散歩や論文執筆などをして過ごします。その際も、クリニックと自宅を行き来するドライブが気持ちの切り替えに役立っています。勉強や情報収集は、診療時間や休憩などスキマ時間を活用してコツコツと。「情報収集は広く浅くがモットー。論文集や書籍は最初から読まず、まず目次やタイトルだけ拾い読みして脳にストックする。そうするといざ必要となったとき、レファレンスできるのです」。多忙な日々を送りながらストレスをためないコツは「目の前のことを楽しむことだ」と思います。仕事は自分のためでもあるし、みんなのためにもなる。忙しいということは誰かの役に立っている、そう考えるようにしています」。少し先の未来を見据えてマイペースに歩む、それが中村先生のモットーであるようです。

#### 院長 Profile



なかむら あきひこ  
中村 明彦 院長

1967年、高知県土佐清水市生まれ。1993年、高知医科大学医学部卒業。同大学第2内科入局後、岡山済生会総合病院内科医員となり、2002年に内科医長。2003年に岡山大学腎臓内分分泌代謝内科学入局、同大学大学院医学総合研究科入学。2006年、同大学大学院卒業。2007年、おさふねクリニック開業。